

沖縄の経済活動・生活を支える 交通インフラ整備について



平成24年11月16日
沖縄総合事務局 開発建設部
部長 中野 則夫

目 次

1. 沖縄本島における人・物の流動
2. 沖縄における交通インフラ整備の方針
3. 道路整備による効果(最近の事例)
4. 今後の交通インフラ整備の展開

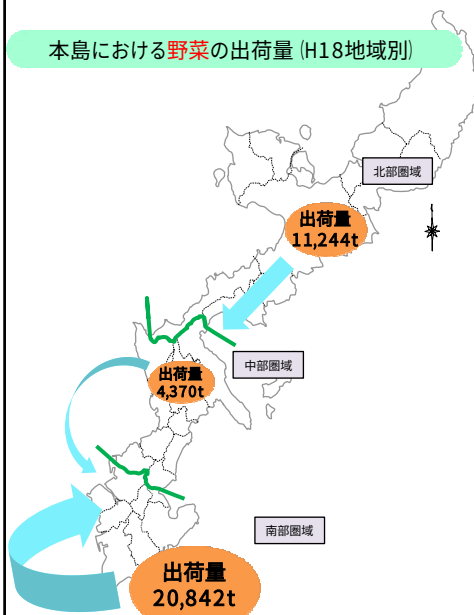
目 次

1. 沖縄本島における人・物の流動
2. 沖縄における交通インフラ整備の方針
3. 道路整備による効果（最近の事例）
4. 今後の交通インフラ整備の展開

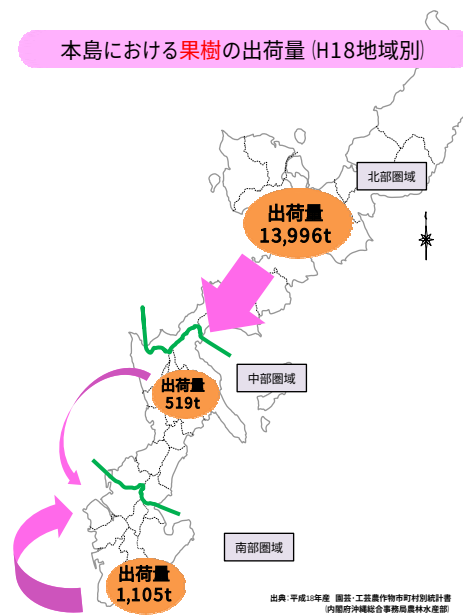
1

沖縄本島における人・物の流動について①

本島における野菜の出荷量（H18地域別）



本島における果樹の出荷量（H18地域別）

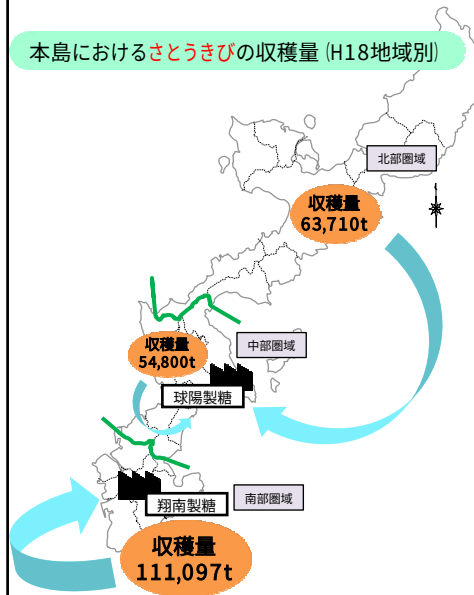


出典：平成18年度 国勢・工業農作物市町村別統計書
（内閣府沖縄総合事務局農林水産部）

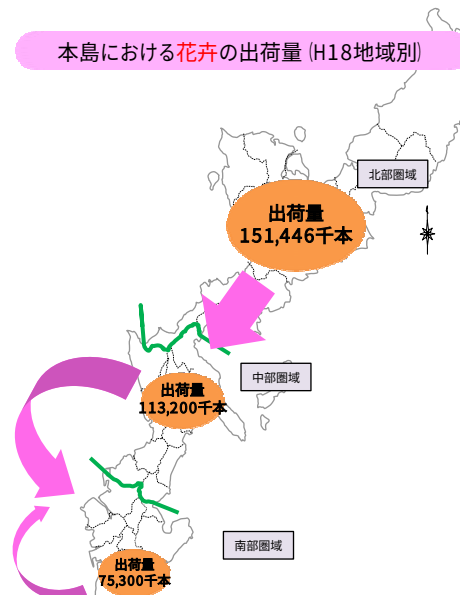
2

沖縄本島における人・物の流動について②

本島におけるさとうきびの収穫量 (H18地域別)



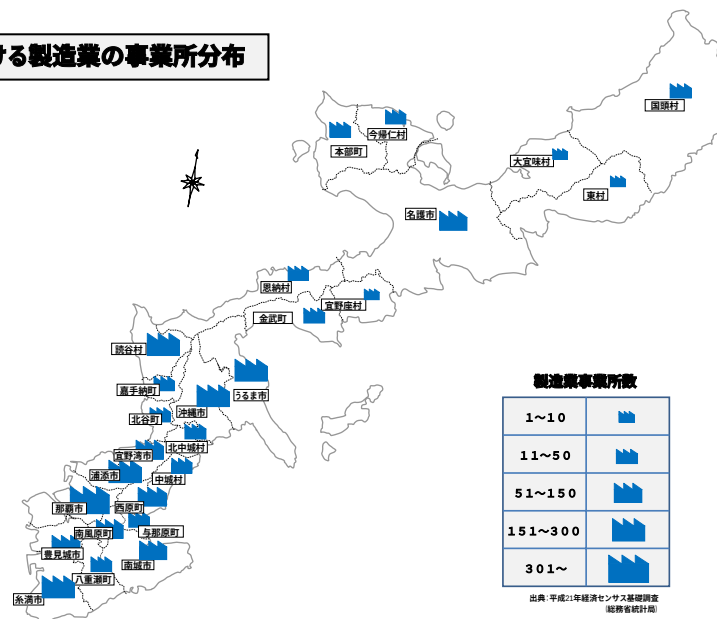
本島における花卉の出荷量 (H18地域別)



3

沖縄本島における人・物の流動について③

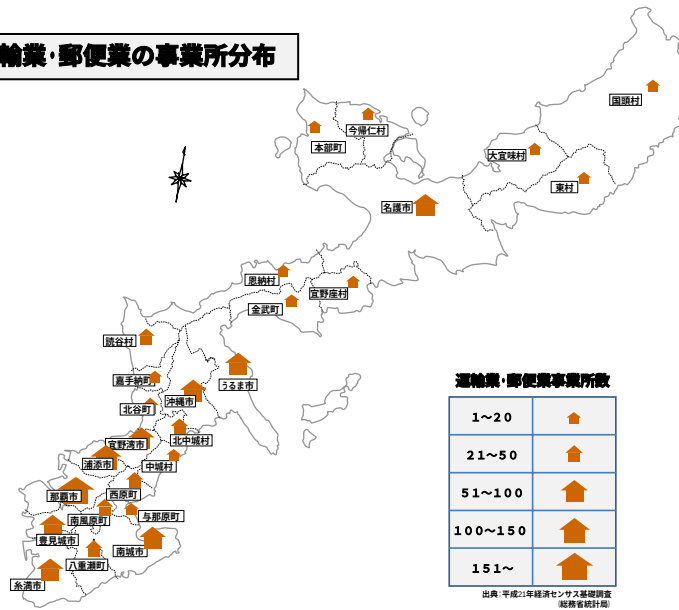
本島における製造業の事業所分布



4

沖縄本島における人・物の流動について④

本島における運輸業・郵便業の事業所分布

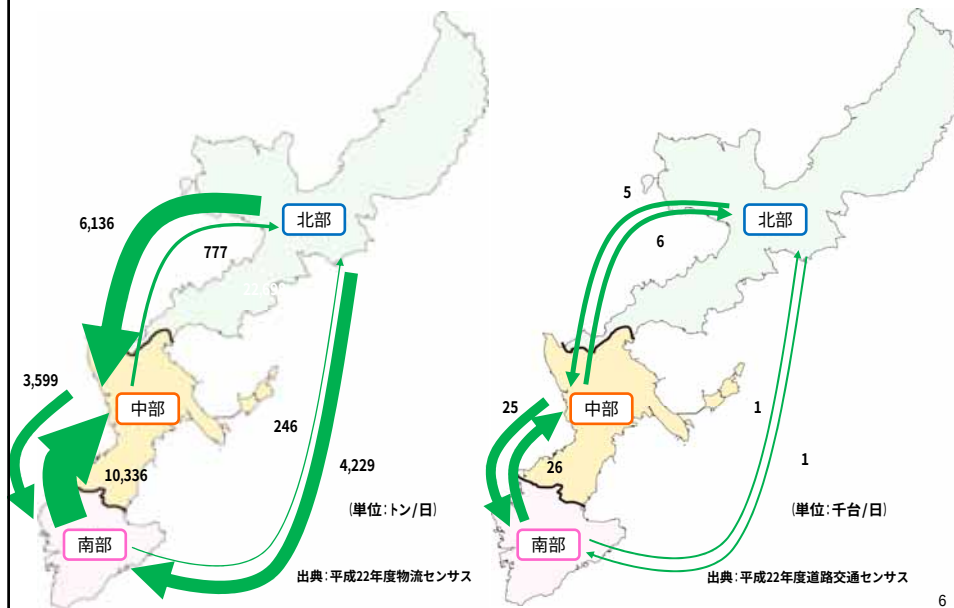


5

本島内の交通物流の状況①

平成22年 地域間貨物流動（全貨物計）

平成22年 地域間OD（貨物車）

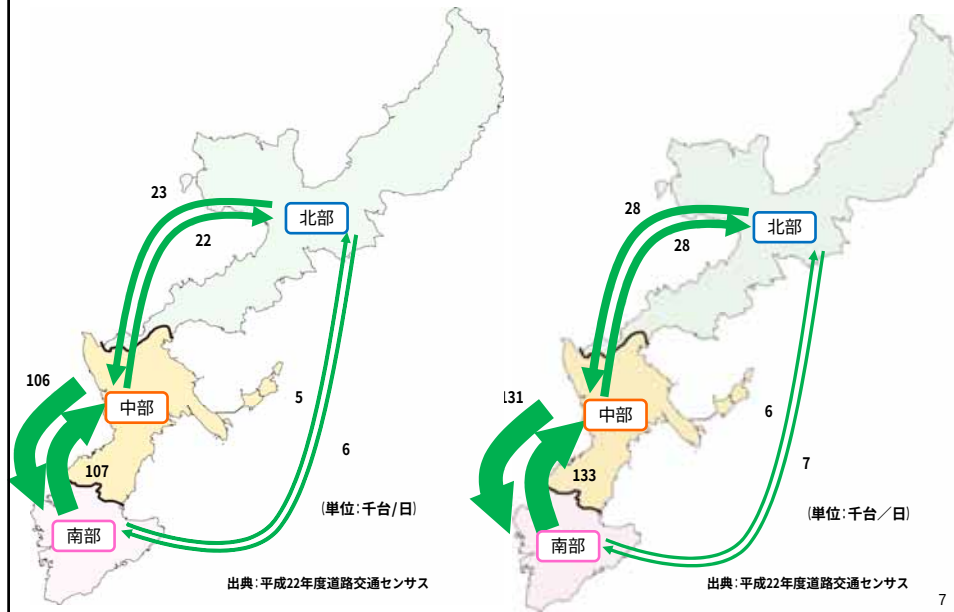


6

本島内の交通物流の状況②

平成22年 地域間OD (貨物車以外)

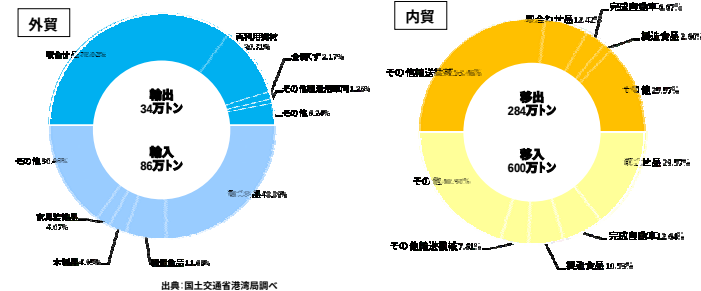
平成22年 地域間OD (全車種計)



那覇港の取扱貨物量

・那覇港は、沖縄県の物流の中心的な拠点港湾として沖縄県の経済社会活動を支えている。
 ・外貨貨物に比べ、内貨貨物がほとんどの貨物量 (約88%) を占めている。
 ・輸入・輸出は、取り合せ品[米軍関係]が占める割合が多く、移入は、取り合せ品、完成自動車等、移出は、その他輸送機械 (空シャーン[本土向け])、取り合せ品[県内離島向け]が多くなっている。

取扱貨物の品目内訳 (2010年) (公共貨物のみ)



<参考>

那覇空港の取扱貨物量 (2010年) 出典: 空港管理状況調査



那覇港と那覇空港の取扱貨物量の内、那覇港が占める割合は96.4%

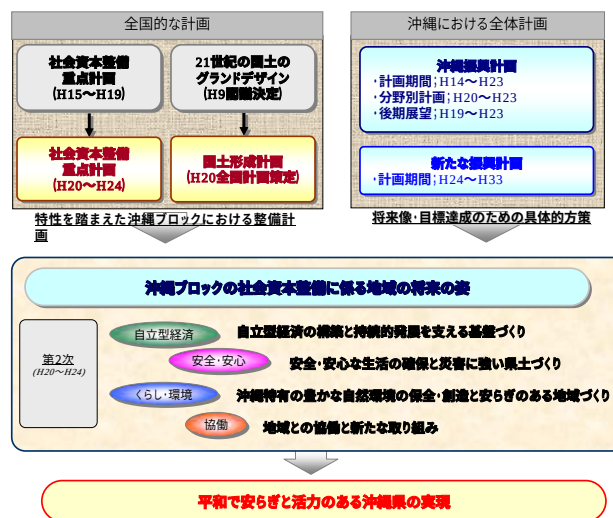
目 次

1. 沖縄本島における人・物の流動
2. 沖縄における交通インフラ整備の方針
3. 道路整備による効果（最近の事例）
4. 今後の交通インフラ整備の展開

9

沖縄における社会資本整備の基本方針

沖縄総合事務局開発建設部では、「平和で安らぎと活力ある沖縄県の実現」を目指して、以下の4つの重点戦略に基づく事業を、効果的かつ効率的に展開します。



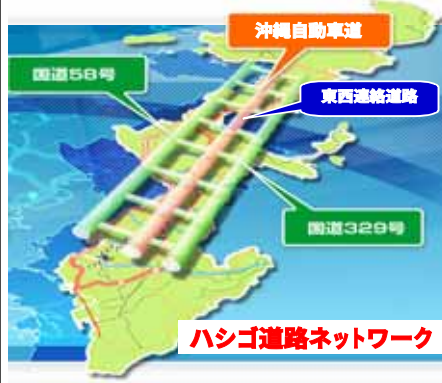
10

沖縄における道路事業の展開

<幹線道路ネットワークの構築>

『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

- 南北を走る強固な「3本の柱」
- 柱を支える「東西連絡道路」
- 高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」



<那覇都市圏の交通円滑化>

『2環状7放射道路』の整備

- 環状・放射道路を整備することにより、交通経路の分散を図り、スムーズな交通の流れを促す

2環状7放射道路



13

ハシゴ道路整備の展開イメージ

『ハシゴ道路』の4つの要素

①南北を走る強固な『3本柱』

～国道58号（西海幹線道路を含む）、329号、沖縄自動車道～

②柱を支える『東西連絡道路』

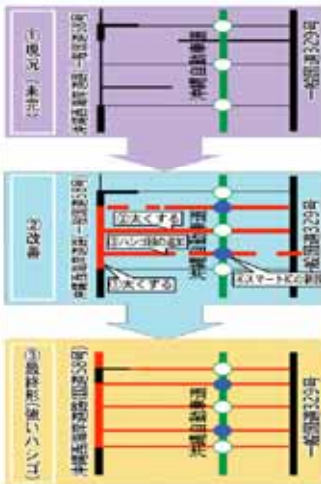
～基地跡地の活用～

③高速を使いやすくするICの増設

～スマートICの整備～

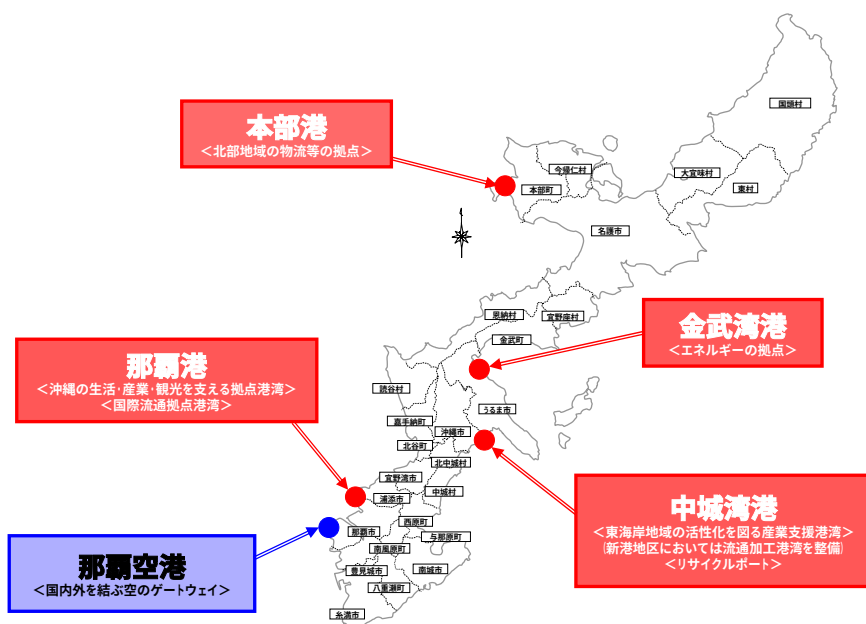
④モノレールと高速バスの連携

～シームレスな乗り換えを可能とする～



14

本島における港湾・空港の位置付け



15

目 次

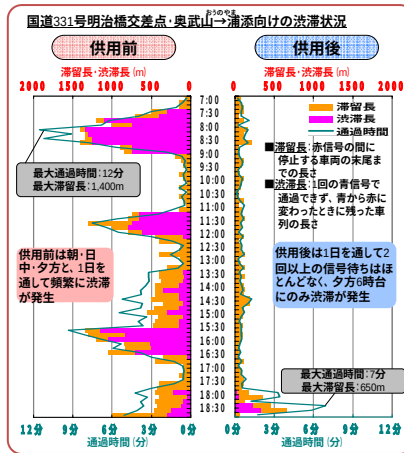
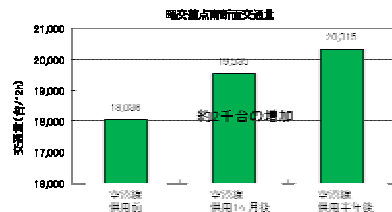
1. 沖縄本島における人・物の流動
2. 沖縄における交通インフラ整備の方針
3. 道路整備による効果 (最近の事例)
4. 今後の交通インフラ整備の展開

16

那覇西道路・臨港道路空港線供用効果



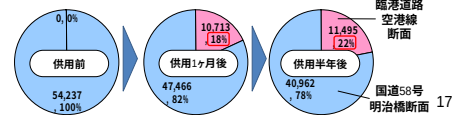
空港線供用前後における臨港道路港湾1号線の交通量



※供用前: 7月13日 (水) 7時～19時計測値
供用後: 9月28日 (水) 7時～19時計測値

空港線供用前後における臨港道路空港線及び国道58号の交通量

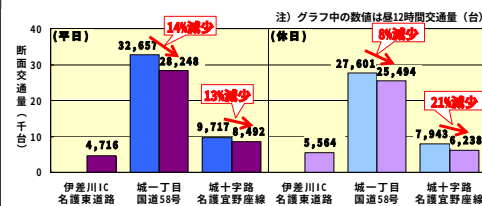
臨港道路空港線および国道58号明治橋断面の交通量(台/昼間12時間)



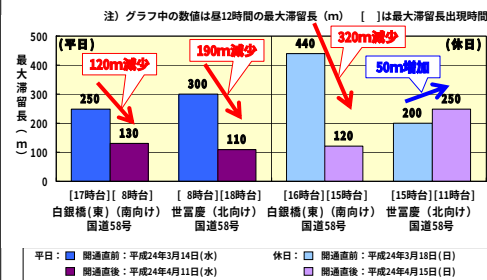
名護東道路の2車線供用(暫定伊差川IC～世富慶IC)の効果



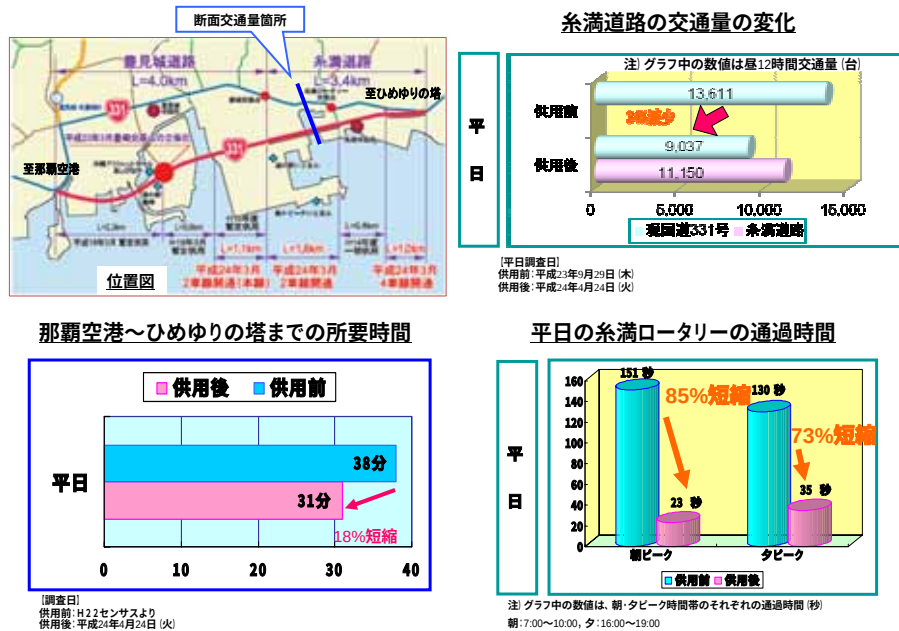
名護市中心部の交通量の変化



国道58号線の渋滞長の変化



豊見城・糸満道路全線供用(暫定)の効果



19

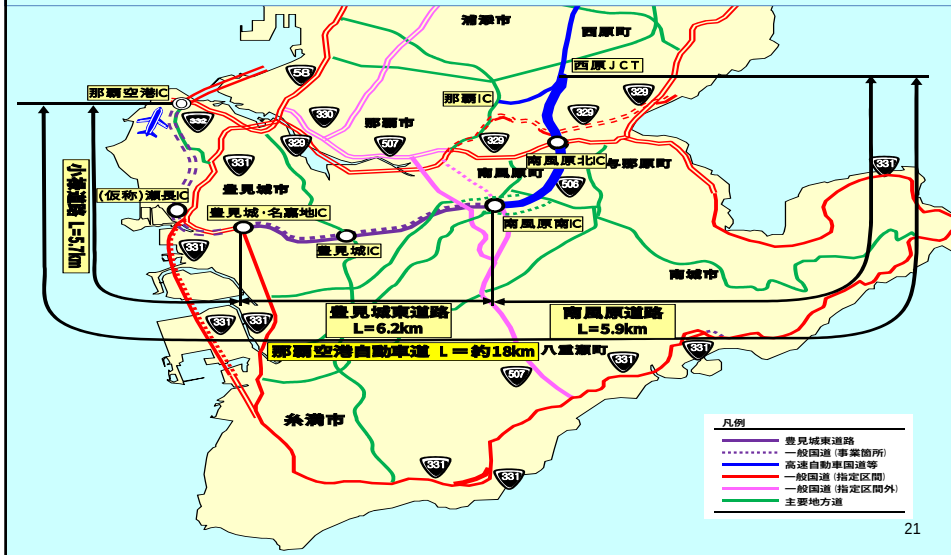
目次

1. 沖縄本島における人・物の流動
2. 沖縄における交通インフラ整備の方針
3. 道路整備による効果(最近の事例)
4. 今後の交通インフラ整備の展開

20

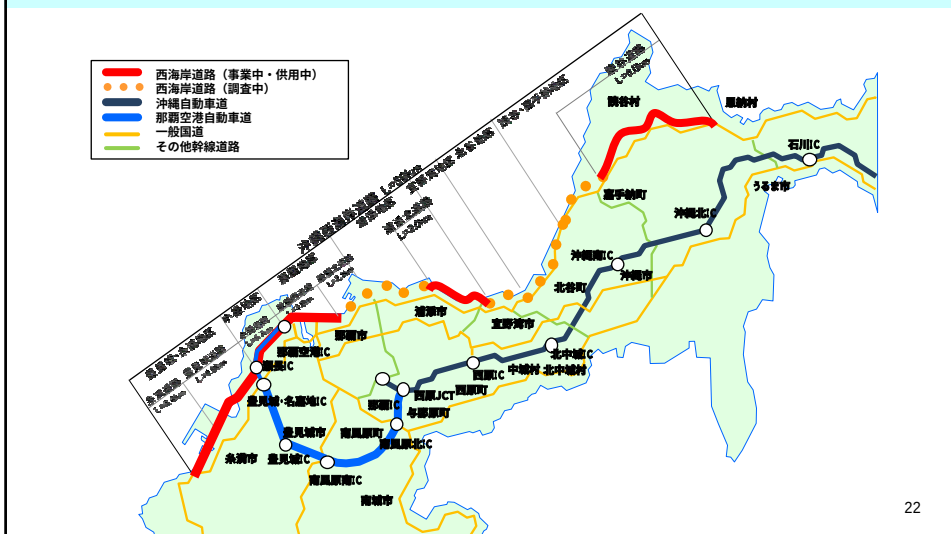
高規格幹線道路 那覇空港自動車道の整備

- 那覇空港と沖縄自動車道を連絡する延長約18kmの高規格幹線道路
- 沖縄自動車道と一体となって、那覇空港との定時性、高速性を確保
- 那覇市内の通過交通が転換されることにより、交通混雑の緩和に寄与



地域高規格道路・沖縄西海岸道路の整備

- 読谷村から糸満市に至る延長約50kmの地域高規格道路
- 那覇空港自動車道・那覇空港・那覇港等の広域交通拠点を相互に連絡
- 中南部の産業拠点・恩納村のリゾート地区と空港等を連絡することにより、観光振興、地域の活性化等の地域振興を支援



中城湾港新港地区国際物流ターミナルの早期整備

- 沖縄本島東海岸地域の活性化を図るため、新港地区において産業支援港湾としての整備の一環として11mの水深を有する国際物流ターミナルの早期整備を図る。



定期船就航実証実験

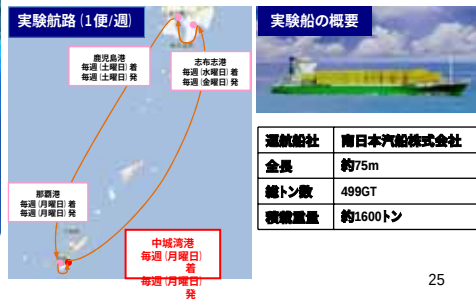
〔概要〕

中城湾港新港地区への定期船就航に向け、平成23年11月21日より実証実験を開始する。この実証実験は中城湾港の利用による輸送コストの低減、時間短縮効果及び関係者の課題の把握とその対策を検証し、中城湾港の利用による背後立地企業の活性化を目的とする。

〔事業主体〕 沖縄県（港湾管理者）

〔事業期間〕 平成22年度～平成24年度

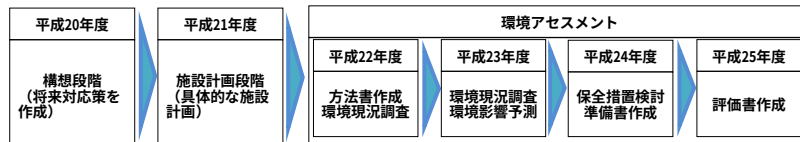
〔事業の実績〕 実験前 平均226トン/月 → 1023トン/月
(H23.11～H24.9)



25

那覇空港滑走路増設事業

【滑走路】
延長：2700m
(現滑走路から1310m沖合)
【滑走路処理容量】
発着回数18.5万回/年
(現在：13.5万回/年)
【公有水面の埋立面積】
約160ha
【総事業費】
約1900億円
【工期】
約7年



＜参考＞

●沖縄振興基本方針（平成24年5月11日）

「適切な財源の確保を前提とした第二滑走路の整備を図る」

●沖縄振興計画（沖縄県、平成24年5月15日）

「那覇空港の滑走路増設等については、早期実現に向けて諸課題に取り組む」

●沖縄復興40周年記念式典（平成24年5月15日）総理大臣式辞

「那覇空港の第二滑走路について、平成25年度予算編成過程で財源の検討を行って早急に整備を推進」

26